

2025年度 第1回地域連携推進会議 議事録

事業所名	社会福祉法人福音会 宇津峰十字の里
サービス種別	障害者支援施設
開催日時	2025年7月15日（火）13:30～15:30
開催場所	宇津峰十字の里 春椿
出席者 計12名	宇津峰十字の里 ご利用者 1名 宇津峰十字の里 保護者会長 1名 福祉に知見のある方 1名 地域の関係者（民生委員） 1名 経営に知見のある方 1名 須賀川市保健福祉部職員 1名 福音会理事長 1名 宇津峰十字の里職員（園長、副園長、主任生活支援員、副主任生活支援員）6名
議題内容	<ol style="list-style-type: none"> 出席者自己紹介 理事長挨拶 地域連携推進会議の目的、内容について説明を行う。 事業内容報告 <ol style="list-style-type: none"> 福音会・宇津峰十字の里について 社会福祉法人福音会 事業内容の説明 宇津峰十字の里の基本方針、沿革、目指すところや取り組み等以下の説明を行う。 <p>① 法人の事業所、基本方針、沿革 社会福祉法人福音会は、障がい者福祉サービスを5カ所、障がい児福祉サービスを1カ所、高齢者福祉サービスを1カ所実施している。平成元年に宇津峰十字の里は開所し、現在「自己実現」を基本方針として事業を行っている。 開所以降、「利用者の主体性と自己決定を尊重し、必要なサービスを提供するとともに自立した生活を地域社会において営めるよう支援を行う」を目標に取組みを行ってきた。企業内で作業を行い就労に繋げたり、地域での生活に向けて生活スキルの獲得を行い、体験を経てグループホームへ移行を行った。 他のご利用者は、活動を通して地域と関わり、理解を広げることと、生活と活動の場を分けるため、施設外作業所を地域に設け、内職の下請け作業を行った。また、ジャム作りを行ってデパートや医療機関等で販売を行った。障がいの重い方も共に地域資源を使った活動や外出、外食等を行った。施設ら出て生活することや作業することに反対する保護者もいたが、見学や体験、ご利用者の姿を見て徐々に理解が深まっていった。 一方、最重度の障がいを持つ方が伝えられない思い、願いについて理解を</p>

議題内容	<p>深めるため、職員が一定期間生活を共にすることを行った。その結果、ご利用者の行動・表情から意思表示されていることがわかり、訓練から興味関心の持てるしたいことをすること、わかりやすい環境や安心できるかかわりのある生活を送ることに支援を変えていくことになった。</p> <p>入所される方の半数が自閉症を伴っており、強度行動障害を併せ持つ方もいたため、専門家を招いてコンサルテーションを受けて取り組みを行った。また、自閉症支援に特化した作業所を開設してティーチプログラムのアイディアを取り入れ、個別支援計画を立てて取り組みを行った。その結果、わかること・できることが増え、コミュニケーションもとりやすくなり、ご利用者の生活が安定していった。</p> <p>愛着障がいや精神障がいを併せ持つ方のためには、馬を飼育し乗馬活動を行った。馬との触れ合いや仲間や職員と協力する活動を通して自信や他者への信頼を回復し、生活が安定して対人関係が良好になっていった。</p> <p>地域生活を希望するご利用者のために、通所授産施設を開設し、夜間支援体制のあるケアホームも開設した。希望するご利用者はアパート生活への移行支援も行った。相談支援や居宅サービスもなかったが、職員が想いを持って支えていた。</p> <p>措置から自由契約になると、ご利用者が生活の場や日中活動の場を選択するようになり、ご利用者の希望に基づいた個別支援計画に沿って支援が提供されるようになった。法人ではグループホームを2ヶ所増設し、多機能型の通所施設も2ヶ所開所した。</p> <p>地域移行した方がいた一方で上手くいかず施設へ戻ってくる方もいた。子どもの時から始まる地域生活を支えるには、地域の他機関との連携や専門的支援を行う支援者が必要であることから、相談事業所Almondを開所した。</p> <p>宇津峰十字の里は、地域の方向けの福祉サービスとして、短期入所、日中一時支援、本人会活動や児童療育、ペアレントプログラム研修を実施した。令和4年には、岩瀬地区児童発達支援センターバニラを開所し、法人は「ゆりかごから墓場まで」の支援をつないでご利用者の生活を支える仕組みを作った。</p> <p>② 現在の宇津峰十字の里</p> <p>現在の入所利用者の現況としては、障害支援区分6が8割、発達年齢は2～3歳で実年齢は50代が多い。障がい特性ゆえにコミュニケーション・人間関係で誤解が生じ、虐待を受けやすい。「困っている」を訴えられず、自傷や他害、物損等で訴えるため家族との関係が悪化してしまうという負の連鎖に入った方が多く入所されている。</p> <p>宇津峰十字の里は、「自己実現」を支援方針として掲げ、ご利用者ができるようになりますに、仲間と関わる・社会と関わる中から自信が得られるように取り組みを行っている。</p> <p>支援の特徴としては、丁寧なアセスメント、ご利用者の希望やニーズに沿</p>
------	---

議題内容	<p>った目標設定と課題分析、根拠に基づいた支援、チーム支援と他職種連携支援、困難ケースへの対応である。</p> <p>③ 今後取り組んでいきたいこと</p> <p>今後取り組んでいきたいことは、ご利用者が希望した場所、地域の中で自己実現できること。その第一歩として、「施設まるごと地域生活」を目指し、施設が地域の一員となり、障がいを持つ人も持たない人も、こどもも高齢者も、必要としたときにさりげなく配慮されて安心して生活できる地域づくりである。まず、ご利用者が「隣の〇〇さん」になり、互いにわかる方法で挨拶をし、安心して関わられる関係をつくること、地域の皆さんのお役にたち、地域にあってよかったですと思って頂ける施設づくりを目指していきたいと思う。</p>
	<p>(2) 利用者及び職員の状況についての説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所利用者の定員は40名で、男性が20名女性が20名在籍。 ・年齢は、20代～80代で、40歳以上の方が80%。 ・出身市町村は郡山市が13名、須賀川市が12名で約60%が近隣地域。 ・療育手帳はAが27名、Bが13名で障がいの重い方が約2倍。 ・障害支援区分は支援度の高い区分5と6で、区分6が78%と日常生活に多くの支援を必要とされる方がいる。 ・障がいの合併としては、自閉症やADHDといった自閉症スペクトラムを持つ方が約半数おられ、環境と支援が行き届かなかったゆえに強度行動障害を併せ持つ方も多く、障がい特性や発達に応じた専門的支援が必要。 ・サービス利用料金は収入に応じての負担となり、障害基礎年金のみが収入になる方は自己負担が0円になる。その他食費、光熱水費、金銭管理サービス費、おやつ代等は自己負担となり、月約45,000～53,000円支払う。障害基礎年金は月額約69,000円～85,000円なので、支払って残った約24,000円～32,000円の金額を医療費や小遣い等に充てることになる。 ・働く職員は、サービス管理責任者、生活支援員、看護師、事務員、栄養士、調理員等様々な職種や資格を持った職員が働いている。
	<p>(3) 施設入所支援の様子や取り組み等について以下の説明を行う。</p> <p>① 生活の日課・週課・月課について</p> <p>生活の日課について、全体日課のほかに個別日課があり、起床・就寝、食事やティータイム、友人との余暇などご本人の選択や行いやすいスケジュールで生活を行っている。他に週課や月課があり、月の余暇予定はご利用者が自治会で話し合って計画している。見通しが持てないと不安な方が多いため、ご本人がわかる個別スケジュールを提示し、絵や文字、写真、カレンダー等を使用してお伝えし、主体的に生活できるようにしている。</p> <p>② ケアプランについて</p> <p>サービスは個別の希望に沿ってケアプランを作成し、提供されている。ケ</p>

議題内容	<p>アプランの会議は、ご利用者・担当職員・主任・副主任・サービス管理責任者、必要に応じて医務や栄養士が参加して協議を行っている。会議の中でご利用者の意見が変わることもあり、経験を積むことの必要性が感じられる。</p> <p>ケアプラン作成時にはマニュアルも作成し、いつ・どこで・誰が・何を・どのように・どのくらいするのかが記載される。これは、職員が統一支援を行う基となる。</p> <p>③ 自己肯定感を高める取り組み、統一支援について</p> <p>ご利用者が自分の行ったことに自信を持ち自己肯定感を高めるため、ケアプランの達成状況をご利用者が確認できるよう、ハッピーノートを作成している。また、個別の行動を強化するためのトーケンシステムを使用している方もいる。努力して目標を達成できたことを自己評価できる機会を得ている。</p> <p>支援の際には、人や場所・場面・方法・物が変わると混乱してしまうことや、方法が違うと結果が変わってくるため、関わる職員間で統一支援ができるよう、マニュアルの読み合わせや動作の確認を行っている。</p> <p>④ 生活の様子について</p> <p>休日の様子や部屋での過ごし方としては、男子は対人関係をとることが苦手な方が多いため、好きなことを媒体に例えばジュース作り等を友人と行っている。また、部屋の自分のスペースにはミニカーや野球の本を置くなど好きなものがある環境で生活できるようにして頂いている。女子は人に合わせることが苦手でも楽しみを共感することを望む方が多いため、少人数でゲームを行ったり、役割分担して調理を行う等している。</p> <p>⑤ 自治会活動について</p> <p>自分たちの生活のルールや友人との関わり方を学んだり、行事の企画等自分達の生活を自分達で考えて良くするため、自治会活動を行っている。また、グループホームや他事業所の見学や体験等を仲間に向けて伝えることも行っている。</p> <p>(4) 生活介護、行事、椿の家、地域交流等について以下の説明を行う。</p> <p>① 生活介護について</p> <p>午前に7つ午後に9つの活動メニューがあり、午後の活動は前後期で入れ替になるものもある。ご利用者のしたいことに合わせた活動メニューであるため、毎年変更もある。施設外には作業所が2か所あり、生活と作業の場を離し、お仕事に行くという意識を持って頂いている。</p> <p>活動が週課でグループ分けされているため、ご利用者が今日どこで誰と活動するかがわかるよう、午前午後の活動グループやメンバーを記載したボードを掲示している。必要な方には個別のスケジュールの提示も行っている。ご利用者は、その日の気分等で活動を変更したい時には、職員に活動の調整や変更を訴え、調整している。</p> <p>むかいやま作業所では、作業工賃が欲しい人、作業体験をしたい人が活動</p>
------	--

議題内容	<p>しており、5社の企業から箱折りや段ボール組立、封入、カス取り等の仕事を受けている。様々な工程の仕事があることで、ご利用者の強みや能力に合わせてできる作業が提示できている。集中力や手先の器用さなども個人により違うため、作業種目や作業時間、作業量、休憩の取り方も個別で決め、調子によっては選択肢の中から自分で選べるように配慮している。作業工賃は毎月の売り上げを時給に換算して支給している。お金では価値がわからない方には、好きなお菓子などご本人に伝わるもので支給している。</p> <p>ひょうたん島作業所では、自閉症の方が自分は何をするかを理解して自立的に作業や余暇活動等を行うことができるよう、ティーチプログラム*のアイディアを取り入れ、ワークシステムやスケジュール、構造化を取り入れて活動している。いつどこで何をどのくらいするのか、順番や楽しみがいつあるか、変えたい時や困った時にどの方法で訴えれば良いのかなど、視覚的にわかるようになっている。また、言葉でのやり取りが難しいけれど絵と現物のマッチングができる方には、ペクスブック*を使ってカードでコミュニケーションをとができるようになっている。作業種目は箱折り等で、他に自立課題、余暇等を行っている。ご利用者が興味を持てる余暇を体験して好きなことを見つけていくことは、自宅に帰った時に楽しんで適切に過ごすことができることにつながる。</p> <p>身体を動かすことが好きな方にはクリーニング活動や、戸外活動が発散につながる方にはペットボトルのリサイクルや野菜を育てる活動がある。リサイクルは、スーパーでカードにポイントをためておやつを購入する楽しみへつながっている。野菜は、長期休みなどに収穫した野菜でスープを作って仲間と食べる楽しみになっている。</p> <p>高齢の方や障がいの重い方、身体に障害のある方、精神障がいを併せ持つ方への活動としては室内活動がある。個別でストレッチや運動、自立課題等を行っている。</p> <p>感覚の過敏さがあり、集団での活動が難しい方の活動としてはルーム活動がある。少人数で、各自個別スケジュールを使い、集中力に合わせて一つが3~5分で終わる内容で行っている。</p> <p>手工芸や美術作品作りに興味のある方には、アートブリュットの活動がある。作品を通して自己表現したり、気持ちの発散につながっている。各自が得意なこと、好きなもので制作を行っている。</p> <p>その他、地域体育館活動やカラオケ、ゲーム（卓上・Switch）、おやつ作り、ダンス等がある。</p> <p>② 地域資源活動について</p> <p>毎月予定を立てて市内へ買い物や外食に行っている。目的としては、地域の人との交流、ルールやマナーを守る社会性を身につけること、生活や作業意欲の向上がある。外出内容や外出先は、事前にご利用者と話し合って決め、金銭等がわかる方は一緒に計算を行い、予算を立てている。</p>
------	---

議題内容	<p>③ 行事について</p> <p>生活の楽しみや保護者との交流を目的として行事を開催している。お花見や福島県障害者スポーツ大会への参加、開所記念日、保護者との芋煮会や班別見学会、クリスマス会、小グループ旅行などがある。ボランティアの方に来園して頂き、交流する機会も持っている。</p> <p>④ 椿の家について</p> <p>入所施設に併設した建物として椿の家がある。短期入所や強度行動障害のある方でも活動できるスペース、調理が可能なスペース等がある。</p> <p>⑤ 地域交流について</p> <p>オンブズマンやボランティア、実習生との交流、外部講師によるパステルアート作品作りの実施、区長さんに参加して頂いての防災訓練の開催、本人会活動への参加、自立支援協議会協賛行事のアートフェスティバルへの参加、ふれあいスポーツへの参加等実施している。</p>
4 施設見学	<p>椿の家、ひょうたん島作業所、むかいやま作業所、入所施設内を見学</p>
5 感想・質疑	<p>【感想】</p> <p>委 楽しかったです。みんなの様子を見ることができて良かったです。</p> <p>委 環境整備で作業所へ行ったことはあったが、実際に作業しているところは初めて見ました。勉強になりました。建物がきれいで良い、部屋の広さも十分です。浴室の段差を今後解消できるといいと思います。</p> <p>委 宇津峰十字の里の中に初めて入りました。以前老人ホームを担当していましたことがあります、その時の居住環境は狭く施設に入れることについて疑問を感じたことがあります。ここは生活の場としてきちんとできている。作業もきちんとできていて良いと思います。</p> <p>委 異臭が全くなかった。経年劣化は仕方がないと思いますが、全体的に利用者が高齢化しているため段差は改善したほうがいいと思いました。利用者たちが前向きで自主的に動いている。それぞれの存在を感じられる。運営の仕方が良いのだと思う。</p> <p>委 男子利用者の居室、ひょうたん島作業所は初めて行きました。男女での違い、専門的な支援が見れて勉強になりました。重度者が多いが礼儀正しくて挨拶をよくしてくれている。外部の方に対してもウェルカムな様子がいいと思います。自分の生活の基盤ができている。集団生活の中でスキルが積み重なっているのだと思いました。また、職員との信頼関係や絆を感じる。利用者の障がい特性に沿って自己実現に向けて取り組んでいて良いと思います。</p>

	<p>【質疑】</p> <p>委 強度行動障害の方の入所施設での苦労はありますか</p> <p>職 眼鏡にこだわって相手の眼を攻撃してしまう方がいます。その方が入所する際、生育歴や前事業所での様子についてアセスメントを行い、何がしたいのか、どんな時にするのか、何ならわかるのかの仮説を立てて、トライ＆エラー、修正、次展開を立てるということを繰り返してきました。その過程でご本人の要望をくみ取り、本来の姿、自己実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>職 行為障害がある方、他害・自傷・物損のある方が10代で入所しましたが、支援を繰り返していくことで43歳で卒園し、現在は障害者自立訓練施設に入居し、グループホームでの生活を目指している方もいます。</p>
--	---

施設訪問アンケート結果

1. 施設の環境について
①居室や廊下。リビング等にゴミはありますか？
ない・・・・6／6
②設備の破損はありますか？
ない・・・・6／6
③トイレ、浴室、洗面所は清潔ですか？
清潔である・・・・6／6
④居住の場として快適ですか？
はい・・・4／6、どちらとも言えない2／6
(改善点・ご意見)
・段差の部分を改善できれば良いと思う。
・一人のスペースにしては少し狭いと感じた。古い施設の基準なので仕方がないとは思いました。
・施設内で異臭等も全く感じられず大変良かった。
2. ご利用者様について
①衣服は清潔ですか？
はい・・・6／6
②怯えている・不安そうな印象はありませんか？
ない・・・・6／6
(改善点・ご意見)
・個人の好みもあるだろうと思うので、対応もたいへんだろうと思う。
3. 職員について
①ご利用者さんを尊重した態度で接していますか？
はい・・・6／6
②ご利用者さんに対して威圧的な態度や言葉使いはありませんか？
ない・・・・6／6

4. その他

気になる点・ご意見・感想

- ・個人の主体性を大事にしていることをたいへんよく感じた。全体的に職員の方々の気配りを感じた。
- ・生活の支援、就労の支援、いろいろな支援があり入所者が大切にされているなど感じました。
- ・基本方針である「自己実現」地域の中で仲間と共に役割を果たし社会人として生きる。支援の目標である「利用者の主体性と自己決定の尊重」について、今でこそ「すべての人が生きがいを持って自分らしい生活を送ることができるよう」とソーシャルインクルージョンの理念を謳っていますが、措置の時代から取り組まれてきたことは、慧眼というべきものと思います。
- ・ストレスフルな社会にあって、「自己肯定感を高める」ことは、とても重要なキーワードであると捉えています。利用者はもとよりスタッフの皆様も自己肯定感を高めて頂き利用者が嬉しい、楽しいをより多く発見できるようサポートして頂きたいと思います。スタッフ相互のフォロー、支援者を支援する仕組みも重要であると思います。よろしくお願ひいたします。

* ティーチプログラム：自閉スペクトラム症の当事者とその家族を対象とした障害支援プログラム

* ペクスブック：コミュニケーションに困難のある人を対象とした、絵カードを用いた代替／拡大コミュニケーションの手法で使用する絵カードを収納した本

議事録署名人

印